

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100208		
法人名	株式会社ワタナベ		
事業所名	グループホーム ゆふの郷		
所在地	福岡市南区長丘1-4-37		
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果確定日	平成29年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「高齢者が主体的に選択できる生活の場を創る」を実現するために母体である薬局との協働を行い、お一人おひとりのイメージに合った介護を目指しています。
併設の小規模多機能型居宅介護と共に「長丘住んでよか隊」へと加入しており、一事業所としてどのような事が出来るかを常に考え、貢献できる事業所となるよう努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年に開設された「ゆふの郷」は小規模多機能型居宅介護と併設型の2ユニットグループホームである。長丘の住宅街の一角にある3F建ての建物で、当事業所は2、3Fに1ユニットずつが配置されている。母体法人は福岡県内で調剤薬局と介護事業所を複数運営しており、長丘地区にも調剤薬局がある。小学校や幼稚園、公園なども近く、今年は小学生の慰問にも来てもらった。地域との関係も良好で、以前には自治会活動にも参加しており、ボランティアにも来てもらった。近隣の介護事業所とも共同して情報発信や地域支援も行っている。サービスでは平行棒を使った報告訓練や、カラオケ機を使ったレクなどが喜ばれており、休みたい方はゆったり過ごすこともできる。法人として一体的なサービス提供に努め、今後も地域とともに認知症高齢者を支える事業発展が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者が主体的に選択できる生活の場を創る」の理念に共有が進んでいない。	法人の福祉事業部で定められた理念があり、事務所内の掲示と昼礼時の唱和をしている。入社時に課長から理念に関してのオリエンテーションも行っている。定期研修の中などで入居者が主体的な選択を出来ているか、という視点でのサービスの検討もされている。	改めて、事業所内で、サービスへの思いや取り組み姿勢について話し合い、グループホーム独自理念に関しての検討を進められてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの招聘や地域行事への参加は行えているが、日常的ではない。	地域ボランティアの「わかば会」には毎月慰問に来てもらい、音楽演奏などもしてもらっている。秋祭りを毎年開催し、地域への案内も自治会だよりや、回覧板などを通して行っている。地域社協が主体となる「街角かかりつけ事業所」にも登録し、地域への発信や、ボランティア協力も行う。自治会にも加入し、可能な方がいる時は入居者と一緒にも参加する。地域の方から差し入れやボランティアの申し出を受けることもあった。	地域の自治会や町内会との結びつきを強めていくために、引き続きのボランティア活動や、自治活動への参加検討を推し進められていくことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能と共に地域の福祉事業所が集まり「長丘住んでよか隊」に参加しており、地域向けの講習会やカフェ、介護相談などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや事故報告、またご家族からの意見などを当該会議で話し合いをし意見を頂いている。実際、こうした方が良いなどの意見は日常のケアに反映している。	基本的には2ヶ月ごとに、併設小規模多機能と合同で開催し、自治会長、民生委員、地域包括、他事業所ケアマネ、社協、ご家族も参加されている。参加者からの意見も多く、提案や地域情報も頂いている。議事録は求めがあれば開示するが、閲覧や報告などは行っていない。昨年は秋祭りと同日に会議開催をして、様子も見て頂いた。	会議であがった意見に対しての進捗や結果に関しての報告が出来ていない時があるので、取り組みや結果報告が漏れなくされていくことが望まれる。また、親交のある他事業所との相互参加なども進めていくことで、事例を参考にして発展的な会議がなされてはどうか。参加者が増えるような取り組みとして、行事との同日開催や、開催日の調整、家族全員への出欠案内などにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員との連携は制度についてなどを質問する際に程度の連携。	制度に関して質問などある時は市役所に連絡相談をしている。介護申請時は区役所に訪問して行う。今回の外部評価の実施に関しても役所に相談の上、行われた。	運営推進会議の開催案内と前回報告、空室状況などを合わせて郵送などで報告することで、関わりのきっかけにされてはどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回程度、身体拘束についての社内研修は行っている。2ユニット中1ユニットの入口近くに階段室がある事から危険であるという理由に於いて簡易施錠している。	3Fユニットの入り口、1F玄関の施錠はしておらず、自由に移動することが出来る。一度離設のヒヤリハットがあつたが、見守りを強化して対応している。原則、身体拘束をしない方針で今までの所拘束事例もなかった。内部研修によって拘束に関しての勉強会も行い、基本的な理解は進んでいる。	今後の万が一の離設事故に備えて、徘徊ネットワークの登録や、センサー設置など、非常時の対応に関しての検討がなされることに期待したい。外部研修の案内はあるが、参加はされていなかった。時には参加して新たな情報の収集をされてはどうか。

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての社内研修は行っており、身体的な虐待はないが、口頭での伺いがご入居者様にとって心理的に負担となっている事がある為、その職員には都度、指導行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで成年後見制度等の活用はないが、当該制度がスムーズに活用できるよう管理者、職員は学ぶ必要がある。	活用事例はなかったが、制度資料、パンフレットは一部準備されている。研修計画にも上がっていなかった。現状の所準備態勢は整っていなかった。必要時には主に管理者が、外部機関と相談して行う。	権利擁護に関しての定期的な研修計画、実施がなされること、外部研修参加などされることが望まれる。また、成年後見制度、日常生活自立支援事業それぞれの資料準備がされることにも期待したい。一度地域包括にも相談されてみてほしいのではないだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、納得いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をして頂き、意見要望は聞き取る事、それらをケアに反映させている。	家族の8割以上は月1回～の面会に来られており、その際に意見を聞くことも多い。以前、おむつ利用の負担に関して意見があったが、改善に取り組み報告も行った。毎月、個別で写真付きのお便りを発行しており、日頃の様子を報告している。行事事内はお便りや出欠によって行う。	上がってきた要望に対して、全体への報告機会や仕組みがないので、お便りや掲示などを使った方法を検討してはどうだろうか。また、職員の名前を知っていただく取り組みとして、お便りを使った職員紹介などもよいのではないかと。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー制を設け、管理者・リーダーへ意見や提案を聞く機会を設けている。	全体と一緒に、会議を毎月開催しており、全員が参加できるように2回に分けて行っている。個別面談も年2回程度あるが、必要があればそれ以外でも相談することが出来る。本部での会議もあり、勉強会にも参加している。意見も活発に出され、最近では勤務時間帯ごとの役割を整理して業務の効率化に取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けており、各人の自己目標や適正な評価を行っており、現場からの意見を吸い上げて環境改善に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用について制限はせず少しでも長く勤めていただくよう努めている。	男性4人程度で全体では20～60歳代の職員が在籍している。ユニット間の異動は随時行い、事業所全体の情報が把握出来るようにされており、いつでもサポートに入れるようになっている。職員もお互いにコミュニケーションを取りながら、得意なことを活かすよう取り組んでいる。外部研修の案内もあるが、最近では参加した職員はいなかった。休憩時間や場所も独立して確保されている。	

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修において人権擁護についてをテーマとし実施した。	内部研修を29年3月に開催し、人権擁護をテーマに勉強した。「自立支援とは何か」について話し合い、支援者として支えることについて考えられた。今までも外部研修の受講はなかった。	福岡市の人権啓発推進センターを活用した講師派遣や資料貸し出し、そのほかの外部研修の受講などで学習を進められてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例研修以外に全体研修や外部研修も年数回行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社のグループホームを見学し、業務に反映したり、見聞を広める機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にカンファレンスを行い、本人の行動把握や環境づくりを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との要望等に傾聴し、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に緊急時への対応の為、往診医への提携は強くお願いしているが、訪問マッサージや訪問歯科に於いては必要時に検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという立場に置いている事が多い。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時等、初期段階において事業所への来訪は時間が取れば来て頂きたい旨はお願いしており、よほど遠方でなければ本人と家族の縁が切れないよう関わって頂いている。		

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方への把握はあまり行えていないが、関係が続いていると言うことが分かれば途切れないよう声掛け等行っている。	家族以外にも知人や友人の来訪も受けているが、初めての場合は家族にも確認して対応している。家族の協力の下一時帰宅や外泊する方もおり、半分程度を家で過ごされることもある。関係が少ない方も事業所が間に入って連絡も取り持っている。	馴染みの場所にいったり、知人に会いたいというような個別の要望に対しても、人員の配置や支援体制を整えることで実現に向けて取り組まれることが期待される。例えば、誕生日月にもその方だけの個別対応をしたりなど、目標をもってされてみてはどうだろうか。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する入居者の状況や性格を把握しつつ、タイミングを見て入居者同士が関わりをもつよう働きかけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了していると関係性は薄くなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の周知がうまくいってない為、意向の把握などはスタッフによって差がある。	アセスメントは契約時に、計画作成担当者が聞き取って取得している。取得後に申し送りなどでとりあげて現場の職員の意見も反映させる。意思疎通の難しい方には家族の意見や、日頃の様子を観察することで意向の把握に取り組んでいる。	基本情報も、少なくとも介護更新時などには見直しを行い、登録日の記入がなされることが望まれる。センター方式の一部活用など、生活歴の把握が必要な方に対するアプローチを変えたり、追加情報をアセスメントに追記していくことで、より詳細な情報把握が進められることに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時の聴き取りがうまくいってない為、生活歴などがあまり把握できていない。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定例会議等において心身の状態把握・確認は行っているが、有する力を引き出す支援はあまり行えていない。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者との話し合いの場はなく、現状に即した計画はあまり行えていない。	計画作成担当者がプラン作成し、モニタリングを各ユニットの担当者が行っている。随時～半年のプラン見直し時に内容をカンファレンスで共有しており、現場の職員からの意見も反映している。ケアプランは普段は個別ファイルに保管しており、いつでも見られるようになっている。	ケアプラン内容の職員への周知を徹底するために、日々の支援経過とプランを一覧できるようにファイリングしたり、プラン目標ごとの実施チェックを毎日行うモニタリングシートを使ったりしてはどうだろうか。また少なくとも介護更新時には家族や他職種とも連携した担当者会議を行い、記録にも残されることが望まれる。

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは申し送りノート、看護ノートを活用し、情報共有は行っているが、介護計画への見直しにまでは活かしていない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにはなるべく沿う支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は進んでおらず、安全で豊かな暮らしという点に関係性を持たせていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係り付け医とは本人の異変により連携は取られており、家族の都合と合わせ適切な医療を受けて頂いている。	基本的には訪問診療ができる主治医を選択してもらい、法人としても関わりのある2か所を使ってもらっている。通院が必要な際は基本的には家族に介助してもらい、難しい場合には事業所から支援することもある。医療情報も随時家族とやり取りして共有している。正看護師の常勤社員がおり、医療連携や報告、健康管理を常に行っている。母体法人薬局との療養管理指導もされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や往診医等に相談等行っており、受診が必要な際は家族と連携を取り適切な受診等行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣との病院関係者との関係づくりは進んでいるが緊急病院との関係は希薄。入院時には看護・介護添書を送付したり、退院までの間に何度か足を運び情報共有を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に於いて主治医に治る見込みの判断を得て、方針や計画を立てているが、地域との関係はない。	看取り指針を定めており、契約時に説明し、重度化の際にも改めて説明、同意を得ており、対応が可能であれば看取りまで行っている。常駐の看護師がおり、今までにもお一人の方を看取った。併設の小規模とも連携し、必ず看護師が在籍するようにしている。かかりつけ医も24時間対応可能である。看取りの際には関係者と連携を取り合って看取りプランも立てて支援をしている。	今後の対応に備えて、定期的な医療対応や、看取り対応に関しての研修がなされることにも期待したい。

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて等の対応や訓練は行っていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度の避難訓練に於いては参加が初めての者を優先し受けているが地域との連携・協力体制は取れていない。	併設の小規模多機能事業所と合同で年2回の内1回は消防署が立ち合い、昼夜想定それぞれで行っている。スプリンクラーや防災カーテンなどは完備されており、2、3Fからの避難は外階段を使って行える。地域の事業所連絡会の中で、事業所が避難場所提供できる旨も申し出ている。	地域との協力体制を作っていくために、地域の防災訓練の参加や、事業所の防災訓練への参加呼びかけ、運営推進会議との同日開催などが検討されることにも期待したい。備蓄物の確保に取り組みされることも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用中のトイレのドアが開いていたり、認知症がある方といえ、近くで介護についての話をすることがある。	職員の対応に関して、気づいたことがある時は管理者がその都度随時注意もしている。接遇やプライバシーへの配慮に関しての内部研修も行っており、「してあげている」という目線にならないよう気を付けている。写真掲示に関しても事前に同意を頂ける方のみ留め、おおむね個別のお便りのみで写真利用するケースが多い。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活上、入居者との会話の中で思いや希望は聞く事があるが実現できるような働きかけは少ない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所都合での過ごしが多い。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身でされる方以外の方へのいわゆるおしゃれの支援は行っていない。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の後片付けなど衛生面に注意し一緒にやっている方もいる。	以前は事業所内での調理をしていたが、今は食事は3食とも業者からの調理済み食材配達に切り替えており、ご飯のみ事業所で炊飯している。味も良く、時間がとれるようになったことで喜ばれている。おやつレクとして週1回程度は入居者と一緒にすることもある。行事の際はテラスでBBQにしたり、事業所内での調理に切り替えることもある。	食事の感想や要望を聞いたり、交流のきっかけとして、担当や曜日を決めて検食の機会も持たれてみてはどうだろうか。

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使用し水分量の把握は行えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアをして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは取れているが自立に向けた支援は行えていない。	各ユニットごとに全員分が1日の排泄チェック表によって管理されており、便秘が続く場合も処置に漏れがないように、別途書き込まれている。以前おむつ料が負担になっているとの申し出もあり、状態の改善に取り組み軽減につながったことがあった。トイレ誘導のタイミングなど気づいた点がある時は、随時職員同士で共有してケアに繋げている。	定期的に排泄チェック表を見直す機会や、担当を作ることで(カンファレンス、申し送りなど)排泄状況の自立支援に向けた具体的な提案や、抜けの無いケアの改善に向けた取り組みがなされることに期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期水分補給時に、乳酸菌の入った水分や牛乳にて自然排便を期待している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所都合により入浴していることがあるが、希望があれば時間帯は検討し、実施している。	2Fが機械浴、3Fが一般浴室になっており、状態に合わせたフロアを利用してもらっている。原則週2回午前～昼過ぎの入浴で、希望のある方は3回にすることもある。順番は決めず、要望に対応しており、拒まれた際も時間や、担当を変えることで無理強いせず、少なくとも週2回の入浴機会を確保している。入浴の場がゆったりとしたコミュニケーションの場としても役立っており、皮膚観察もされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の環境整備、隣室との関係などに注意し夜間安眠できるよう行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量への理解は薄い。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	量や回数に気を付けてお酒を嗜まれる入居者と関わり支援している。		

H29自己・外部評価表(ゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望による外出は少ないが、定期的な事業所買物等へは同行して頂いている。また、毎日、家族とお出かけされる方もいる。	花見など、季節の外出行事を年に3~4回程度企画している。個別の要望への対応には家族と相談して連れ出してもらう事が多い。気候の良い時期には近隣の散歩などには気軽に言っており、計画外でもドライブや買い物に行っている。法人系列のカフェも近くにあり、お茶を飲みに立ち寄ることも多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しいことがあるがご家族と相談したうえで、持って頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はして頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間内に工作等で作った飾り付けなどを行っている。	3F建ての2、3Fがグループホームだが、2Fには広めのテラスがあり、庭代わりに緑化もされている。春には玄関横に植えられた桜がちょうど目線の高さで開花しており楽しめる。ホールを中心に居室が配置され、一緒に過ごすことも多く、食後にゆったりとソファでうたた寝される方もいる。カラオケ機も用意されており、壁に貼られた歌詞のイラストを見ながらレクで合唱されることもある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配席への工夫は行っており、相性の合う入居者、合わない入居者との区別判断は行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスなどを持ち込みいただき過ごして頂いている。	居室の戸口には花や植物の名前が表札代わりにかけられている。家具調の電動介護ベッドが備え付けられており、上部に飾り棚兼収納棚も設置されている。ダークブラウン基調のシックな雰囲気、落ち着いた印象である。テレビなどの持ち込みも自由で、部屋でDVD鑑賞を楽しむ方もいるという。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に見当たらない。		